

はじめに

放火犯罪は、その悪質性、結果の重大性、人々の不安の強さから見て、見逃すことの出来ない凶悪犯罪である。しかも、この放火犯罪が経済不況の反映か増加傾向を辿っている。この放火犯罪に対しては「発生させないこと」が重要である。特に、市民の不安感の極めて高い「連続放火犯罪」に対しては、「発生させない」だけでなく、その被疑者の早期の検挙あるいは逮捕が強く市民から望まれる。連続放火事件においては、被疑者の検挙あるいは逮捕も重要な「防犯活動」に他ならない。本研究は都市計画的な観点から放火火災発生のメカニズムを分析し放火の抑制に寄与する制御可能な空間要素を導き出す。空間を制御することで防ぐことのできるのは機会犯罪である。放火する行為そのものは確信的であっても、空間選択においては機会的、つまり放火しやすい空間を選択するはずであるという前提である。放火は都市空間で生活する上で日常的な身近な問題であり、生命や財産に関わる問題である。従来、犯罪に関するデータはプライバシー保護の観点から一般の研究者の使用は極めて制限されており都市計画的な観点からのアプローチの重要性は認識されていたにも関わらず積極的な研究はされていなかった。今回、神戸市消防局から提供された平成元年から平成10年までの10年間の神戸市内で発生した放火火災のデータ、約2500件と連続放火犯罪2件を中心に分析を行う。

最後に、こうした先進的研究を可能にくださった（財）社会安全研究財団の方々に深く感謝申し上げます。

平成13年3月

安全なまちづくり研究会

代表 小出 治

研究会委員

委員長 小出 治（東京大学 教授）

委員 清永賢二（日本女子大学 教授）

委員 栗村成彦（財団法人 都市防災研究所 常務理事）

委員 樋村恭一（財団法人 都市防災研究所 主任研究員）

なお、調査研究の実施および報告書執筆は樋村が全て行った。